

会議の概要（議事録）

会 議 の 名 称	(番号) 1-49	墨田区基本構想審議会 第1部会（第5回）		
開 催 日 時	令和6年11月25日（月） 18：30から20：30まで			
開 催 場 所	区役所12階 122会議室			
出 席 者 数	【委員】加藤久和（部会長）、相澤純一、阿部貴明、老田勝、井上佳洋、佐久間之、森山育子（計7名） 【事務局】岩佐企画経営室長、楠政策担当課長、政策担当主査（原）			
会 議 の 公 開 （ 傍 聴 ）	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	傍聴者数	12人	
議 題	・ 前回の振り返り ・ 部会のまとめ			
配 付 資 料	・ 次第 ・ 観光・シティプロモーション分野における未来予想図（案） ・ これまでの未来予想図（修正案） ・ 基本構想の構成、第1部会における未来予想図全体像 ・ 各分野における区民等の意見の反映 ・ 区民ワークショップ、オープンハウス型説明会まとめ ・ 子どもの意見（タウンミーティング） ・ 若手職員ワークショップからの提案 ・ 若手職員ワークショップ成果提案書			
会 議 概 要	1 事務局からの伝達事項 事務局より本日のテーマについて説明を行った。 2 審議 （1）前回の振り返り及びこれまでの未来予想図の修正案について 事務局より資料1及び2について、説明を行った。 （加藤部会長） 前回のご意見や未来予想図、これまでの部会で提示された未来予想図の委員の皆様からのご指摘を踏まえた修正案について事務局から説明をいただいた。 資料1の観光・シティプロモーションに関する未来像について何かご意見があればお願いしたい。これまでずっと時計回り等々で、委員の皆様お一人ずつお話いただいたが本日は挙手方式でどなたからでもご発言いただきたい。			

(老田委員)

観光・シティプロモーションのまとめの中の 10 年後の未来予想図の話で、「あらゆるものを魅力にする」について、包括的にいろんなものがあるという表現をされているが、すみだって何があるのと外の人に言われたときに、あらゆるものがあるという返事はないなとちょっと思ってしまった。

相撲にしても花火にしても江戸は絡んでいるし、それ以外のところでも色んなものがあるものを、うまくまとめるとかキーワードを見つけられないかと感じた。

確かに江戸東京博物館の江戸東京で上手に言葉を選んだなっていうことも印象はある。そういうふうな江戸東京文化みたいなことを言えばいいのかは、わからないが、いずれにしても何となく上手い一言で表現したいなっていう印象を受けた。

(佐久間委員)

今老田委員がおっしゃったところで、この文化芸術・スポーツ分野のところで北斎が入っているが、言葉が重複にはなってしまうかもしれないが、こっちの観光の方にも、観光資源という、立派なあらゆるものを魅力にするっていうところで、ものづくりや北斎っていうのをに入れていただければありがたい。観光にも通じるところがあるので、インバウンドが大勢来ているので、その辺も代表するキーワードなのかなと思う。

(森山委員)

ここは本当に難しいところで、具体例をあげればいいのかっていうことが、まずすごく難しく、ただその最後の「様々な資源が連携し、重なり合うことでまちの魅力高める」という表現は考えていただいたんだなっていうのはすごく感じる。

以前、阿部委員から観光協会がすみだの観光を考えると、一番初めのキャッチフレーズで「本物が生きる街すみだ」という言葉を作られた。今の観光を考えたときに江戸時代の風景は無い。墨田区には江戸時代の風景は無い中で、江戸というものをどこまで見せていくのかということを考えていくと、江戸から引き継がれてきた色んなものの今を見せるということの方が、今の人達には良いのかと思う。

特に若い人達、これから将来を担っていく、20代30代の世代の人達にとって、忠臣蔵も鬼平も江戸というものも正直身近に無い。今、時代劇も無い、何も無いので、昔の話としてピンとこない子たちが多い中で、海外の人たちは確かに江戸文化ってすごく北斎だとかそういったものに、ものすごく魅力的に感じるのだけど、かといってそれが、今日の前に昔の風景があるかといったら無い中で、ある意味江戸から引き継がれてきた色んなものが現在も生きている、だからやっぱり本物が生きる街すみだっていいキャッチフレーズだったのだから改めて思う。

なので、すごく抽象的なのかも知れないが、この表現は私も良い表現だなとすごく思っていて、お相撲さんも海外の人たちが何を見に行っているかといったら、相撲部屋に実際に本物の力士さんを見に来ている。北斎美術館には、北斎が描いたものを見に来ている、北斎が生きていた時代に興味はある人もいるので、憧れてきた北斎の描いたものを見に来ている。それが今、北斎美術館にあるという現実の中で見に来ていることを考えたときに、何かやっぱり本物が今でも生きているんだ、今

はどうなのかっていうことを見るっていうことを考えると、なんかやっぱり本物という言い方ってすごく抽象的かもしれないが、墨田はそういうものを引き継いできて、今という現実があるのかなと感じる。

(阿部委員)

私の方も「本物が生きる街」という文章にはこだわらないが、ただあらゆるもの、何でも魅力があるというのは難しい。あらゆるものの定義が、要は日常全てのところ。ハレの日観光ではなくて、スカイツリーを全面に出さないのは決して悪いことではなくて、私達の日常そのものが光っていて、その光を見てほしいというのが、元々「本物が生きる街」の基本コンセプト。ここには具体的に出てないが、地域のお祭りという言葉をごここにに入れていただいて、過去の様子からすると、例えばそれぞれの地域で行われている盆踊りに、海外のお客様が非常に興味を示して、一緒に踊る風景とかがある。

それから花街が一切言葉として出てきてないが、なんちゃってじゃないということところがすごく重要で、完全に見世物になってしまっている芸妓さんたちの踊りみたいなことではなく、毎日の生活の中にそれがちゃんと溶け込んでいて、お相撲さんも一緒だし、それから北斎についても、重要な観光資源だが、これも今は葛飾北斎が当然生きているわけではないが、ここで生まれた、ここで育った、出たり入ったりしながらも、縁の地であるということが、本物である。なんかあらゆるものを魅力にというよりも、ここのタイトルのところにできれば、「本物が生きる街」をそのまま使うことに抵抗があるようであれば、「本物が生きているまち」とかでもあると良いのではないか。

(加藤部会長)

江戸東京の本物が息づくまちとか。

(老田委員)

江戸からのって言うてもいいかもしれない。江戸からの本物が息づくまち。

(阿部委員)

江戸を意識することも重要だが、それよりも前、関ヶ原よりも前に土着の人って結構いる。なので、あんまりでかい表題に江戸とは入れない方が良い感じがする。本物が日常に生きるまちとかっていうのがいいかもしれない。

(森山委員)

ある意味度私達にとって違う地方に行けば、私達の生活に無いものは、そこは非日常と同じようなことなので、すみだにとっての日常は、他の人にとっては非日常なんだと思うが、その辺の表現もどっかに入れるといいのではないかな。ちょっと表題は難しい。あんまり古いことばかり言うてもしょうがないけど、今も息づいている、その息づいていることは、訪れる人にとってはやっぱり新鮮で、非日常的なもの。それが古の頃からある。

基本構想は観光客に見せるものでなく、区民に見せるものであるが、区民の人た

ちにやっぱそれを知ってほしいというのもある。

（事務局）

個々の部分は今のご意見を踏まえた上で、もう1回検討させていただく。他に「あたたかく迎える」や「伝え合い、広げていく」というのはいかがか。

（森山委員）

伝え合いと聞くと、「伝え合いラボ」がイメージされるが、「伝え合いラボ」ってそもそもどういう発想で伝え合いという言葉が出たのか。伝え合うというのは、繋ぐってということではなく、広げるということなのか。

（事務局）

伝え合うというところは、基本的にここに書かせていただいた通り、まず自分が知ること、知ったことを人に伝えていく、お互いに伝え合うことで、さらに知識が広がり、理解が深まる。それによってさらに魅力を理解して、それを今度は外にどんどん広げていこうと。こんなに素敵なまちだったんだというものの理解をさらに深めて、広げた上で、外に対しても発信していこうというようなイメージをこの伝え合い、広げていくという想いの中で込めさせていただいている。

確かに「伝え合いラボ」と同じような言葉であるので、重なっているように思われるかもしれないが、あえて意識しているものではないというところはご理解いただきたい。

（阿部委員）

「あたたかく迎える」のところは、表現をうまくしていただいたと思うが、これをもう少し進めた方がいいかなと思うのは、今までの観光で外から来る方を歓迎します、お迎えしますのところはホスピタリティというよりも、何か一方的に押し付けたサービス、サービス提供みたいなイメージがする。サービスとホスピタリティの決定的な違いは、迎え入れる方も一緒に楽しんでいるという状態。これをどうやって演出するかというところで、家に来ていただいてホームパーティーをするときに、快くお迎えをした上で、迎えている自分たちも一緒に楽しむことができるような感覚でお迎えをするというのは、そこで心地よく感じられるっていうふうになっているが、訪れた人と迎える両方が心地良くというよりも、一緒に楽しめるようなイメージがもう少し表現できると、ホスピタリティをベースにした観光がうまく表現できるのではないかなと思う。

（佐久間委員）

阿部委員がおっしゃった、あたたかく迎えるのところで、「もてなす」というような言葉が使えるといいかなと思う。あたたかく迎えてもてなすとか。

（事務局）

先ほどご説明させていただいたとおり、どうしても「おもてなし」というのが阿部委員からお話があったような、一方的なサービス提供のような印象の強い言葉に

なるのかなということを何となく考えている。そうしたところが、今では少し考え方が変わってきているのかなというふうに感じていて、阿部委員のおっしゃられたお話というのはすごく認識として、表現した中で同じような方向性だったのかなと思う。今の佐久間委員からのご指摘も含めて、やはり言葉の選び方、使い方というところに関してはもう一度検討させていただく。

（加藤部会長）

阿部委員がおっしゃったのは、この場合心地良く感じられるって、すごく受け身なので、もう少しポジティブに能動的に楽しむっていう感覚が入った方が良いのではということじゃないかと思う。

（森山委員）

多分基本は交流になってくる。観光客と地元の人たちがコミュニケーションを取るとか、交流という形がとれるような環境作りというのが本当はいいのかなと思うので、ちょっとそこの表現を考えてみてほしい。

（相澤委員）

前回の会議の後振り返ってみたが、森山委員や島田委員がおっしゃっていた下町人情とか、人の部分をこの「あたたかく迎える」だったり、「伝え合い、広げていく」のところに出した方が良いのかなというふうに思っている。結局その何度でも訪れたくなるのは、やっぱり人の部分が結構多くて、親切にしてくれたとか、ご飯が美味しくて、ちゃんと迎え入れてくれたって、そういうところなのかなと思う。結局スカイツリーに1回行ったら、もう別にもう行かなくていいやってなる人も結構多いと思うので、人の部分をもう少し何か表現されても良いかなと思った。

（老田委員）

感覚としてはディズニーに行って、キャストと楽しく遊んだりするとすごく良い思い出になって、ライドが良いというだけでなく、キャストとの触れ合いとかがすごくやっぱりもう1回行きたいという気持ちをうまく作っているように思う。そんな感じのところが参考になるのかなという印象。

（事務局）

現時点の資料の表現だと、あたたかみや落ち着いた雰囲気の表現になっているので、今皆さんがおっしゃられたような交流や、楽しむみたいな雰囲気、人の部分についてはこの観光の部分でうまく表現できるか検討してみたい。

（森山委員）

130人位いるすみだファンクラブの中で、墨田のいいところ魅力的なところをみんなに聞くと、一番多いキーワードが「人」。人情、人が優しい、温かい、人という言葉がすごく出てくるので、墨田の魅力って多分一つには、やっぱり人なんだと思うので、相澤委員おっしゃったように入れた方がいいのかなと感じた。

(佐久間委員)

先ほど老田委員がおっしゃった、触れ合うというところで、「触れ合い」というような言葉も良いかと思った。

(加藤委員)

ありがとうございます。産業振興分野と文化芸術スポーツ分野の修正案についても先ほどご説明を簡単にいただいたところではあるが、こちらについても、ご意見、ご発言をお願いしたい。

(老田委員)

先ほど事務局で説明された中で、何となく雰囲気としてもものづくりから脱却するみたいに関心したが、別に脱却する必要はなくて、ものづくりを、例えば、「ものづくりを礎に、新たな価値づくりに挑む」とか、そんな捉え方でものをつくるだけではなくて、それがもっと広がるみたいな考え方で表現をしていただくと良いかと思う。

(加藤委員)

事務局もものづくりからの脱却は違うのではないかなとおっしゃっていた。

(森山委員)

すみだの産業振興の中で、いくつか事業継承とか課題はあると思うが、今回のすみだファクトリーめぐりで何人かの社長さんと話をしすごく感じたのが、たまたま東墨田の方に行くとある革屋の社長さんと話をしたときに、改めて東墨田の方を見たとき、マンションや新しい家が増えていた。本当に革工場の隣に新築の家が2、3軒建っていたりとかするのを見て、やっぱり音の問題とか臭いの問題とか、そういう問題を、こういう言い方は変だが、新しい住民の方たちがすみだというまちそのものを理解されて来られているのかどうかっていうのはあるかと思う。そういう人たちに、すみだのものづくり、そういったものがどこまで墨田区の価値として認識されているのかと、ちょっと思うところがある。

そういった意味で、この「価値を理解し、応援する」というところが、新住民の人たちに向けてというところで、これは具現化するときの話になるだろうが、本当にどうしていくかというところが大きな課題だと思う。

なので、これもすごくいい表現だなと思うが、そういう新しい人たちにも理解をしていただけるような発信の仕方というのを、行政としてもすみだはこういう所なんだということをもっと強く謳ってほしいかなと思う。価値を理解し、応援するというところが、言葉だけで終わらないような表現になるといいなという気がする。

(相澤委員)

歴史とか伝統とかに関わる文言がこの3つの中には入っていないような気がするので、そのせいなのかも知れないと思った。

(森山委員)

なぜすみだが産業のまちになったか、ものづくりのまちになったかというところが、この中に入れるのが良いのかどうかわかんないけど、背景として、すみだがなぜ今ものづくりのまちなのかというところを、意識してもいいのかなと思った。

(相澤委員)

なぜ価値があるのかというのが、ずっと続けてやってきたから価値があるのか、単純にただ経済的にビジネス的に何か大きな価値があるから価値があるのかっていうのが「価値を理解し」だけだとちょっと足りないのかなと感じてしまうのかと思う。

(加藤委員)

「価値を理解し」という表現自体が難しいのか。

(事務局)

ここの表記については、以前この第1部会で地産地商の話があって、墨田区で生まれた、作られた製品を、まずは区民の人たちに価値を理解してもらって、使ってもらいたいと、さらに流通みたいなところを意識したご意見の中から、10年後の姿として書かせていただいた部分になる。

(井上委員)

私は違和感なくて、価値を理解し自ら購入して使用するとなっているので、その部分はある限り違和感がない。先ほどのシティプロモーションとかに引き戻すつもりはないが、先ほど相澤委員さんがおっしゃられた、人情的なところがすごくわかるが、一方で森山委員がおっしゃられた、皮革産業の臭いとかの問題ではあまり理解してもらえないっていうのは、結構反対なことになってしまっているような気がする。

人情、人情と言っても、実際に単身世帯ばかりが増えているというデータがあって、お子さんが生まれてもすぐ区外へ出て行ってしまう中で、そういう方たちが臭いとか、色々とおっしゃる方なのかなと推測すると、先ほどのあたたかく迎えるというところに人情とかが入ってくると、何か乖離しているのではないかという気はする。

文章自体はそんなに違和感を持ってなくて、他の文章を見ても、そういうことが言いたいんだなっていうことはわかる。

(森山委員)

文章には違和感がないが、何か今現実として起きていることのギャップをすごく感じるのがあって、ちょっと逆にそこに違和感があるというかそれをスルーしていいのかみたいなのが気になる。

(阿部委員)

この基本構想が改めて次の10年、その次のまた10年の将来に向けて、どうして

いくとより良いすみだになるのかという視点からすると、ちょっと誤解をされないよう申し上げると、私達が思っている価値の押し付けをするとあんまり良くないと感じる。

価値を価値として、ちゃんとお認めをいただけるような表現をちゃんとしないと、自分たちはこれが価値だと思っているから、皆さんもそれを理解した上で、理解しない人は来なくていいみたいな話だと、今後墨田区は発展していかないと思われる。先ほど、たまたま東墨田の音だったり、臭いだったり、あるいは夜遅くまで仕事していることによる光だったり、本当に少し前までは、後から来たやつが文句言うんじゃないみたいなことを比較的平気で、口だけでなく、本気でそう思っていた。本気でそう思っているが、世の中は多分変わりつつあり、環境とかエコとか言っている中には、当然騒音も入るし、いわゆる公害的な意味での臭いだとか、ちゃんとコントロールができることが多分求められていると思う。そうすると、以前話したが、ものづくりの中でも、都市型のものづくりは当然ありうるし、老田委員がおっしゃられている、今までのものづくりで培われてきたものを礎に、のところにについては、それをベースにして、ファブレスでも立派なものづくりになると思う。

実際にハードのモノを作るのは、すみだでは色々な意味で向かないと仮にすると、デザイン的なところや、繋ぎ合わせのところ、あるいは最初のパイロットプラント規模での都市型ものづくりを、まずすみだでやるようなことも考えられる。

昔からやっているハードのものづくりをずっとやり続け、それを理解してくれと言っても、ちょっと時代との乖離が大きいのではないかと思う。革、繊維、化学品、ゴム、あるいは染料染物にしても、川に囲まれている中で発達してきた部分もあり、川に囲まれて発達してきたのは、川の水を使って、どんどん垂れ流していたから。

それは今認められないので、そうすると、ものづくりも明らかに進化をしないといけなくて、そういう意味では、ものづくりにどこまでこだわるかというのは、こだわるべきだけれども、今の時代やこれからの時代に合わせた墨田区らしい新たなものづくりのイメージが明確にないと、今までやっていることをずっとやり続けるみたいなことになるのは、あまり良くない気がしている。

(森山委員)

墨田区は本当にものづくりのまちを続けるのか、ものづくりのまちなのかという議論が以前あったと思うが、ものづくりのまちとしてこだわっているのであれば、まちづくりとか都市づくりと連携していて、要は工場と住居が混在している状況が今あって、そこを都市整備なりそういったものをどうしていくのかということも本当は一緒に考えていかなくてはいけない部分もあると思う。なかなか狭い土地の中で工業地帯と住居地帯と分けることは難しいのかもしれないが、そういうところもものづくりのまちということに墨田区がこだわっていくのであれば、一緒に考えていかなくてはいけないと思う。

(老田委員)

多分最初の会議でお話したと思うが、後から来たやつが文句言うなよとか、そういう話にならないがために、工場があるところなので防音の性能を上げるとか、臭気がそこに至らないような風の流れを工夫するとか、それを行政指導として建物を

建てていくというふうにしなければいけなくて、安心してものをつくれるまちを作っていく必要があると思う。

別にその「ものをつくる」というのは、大量生産を求めているわけではないので、それをものづくりというのか、ものが生まれるぐらいの言い方に変えていくのかみたいな違いはあると思うが、いずれにしても新しく建つ建物はほとんどがマンションなので、ベッドタウン化する中で、それでも工業も何とか残していきたい分野だし、さらにそこで良いものが生まれれば、それを扱う商人が商業を発展させていきたい、良いものを作って物流に乗せて、しっかりと回ったりしていかないと社会課題は解決しない。

出来上がって終わりという話だと何もならないので、やはり社会課題を解決するような話であれば、しっかりと流通させる。それが私が一番最初に言った地産地商の「商う」。だから住民が買うという話ではなくて、むしろそこにある企業がしっかりと物を商い、それを広げていくということをしないと、インターフェースではないと思い申し上げた。

(佐久間委員)

価値を理解し、応援するというところのタイトルについて、「理解し」のところを、言葉遣いの話でなんか高飛車な感じもするので、「価値に気づき、尊重し応援する」とか、価値があって理解するというより、それを認めてもらいたいという趣旨にした方が良くかなと思った。

(阿部委員)

要は価値も今風にアップデートされないといけないと思う。現実の問題として、私が子供のときにあったすみだの風景はもう完全になくて、どこにも煙突なんか立ってないし、誰も川に汚水を流したりしないので、廃棄物のコントロールとか、公害のコントロールをしている中で、昔どおりのものづくりはもちろんできない。

なので、ものづくりのまちとして継続していくのはいいが、ものづくりの定義が、何十年も前のものづくりと全く同じことをやり続けるみたいなイメージになって、それを理解しようと言われても、私でも理解できないので、何らかの形で価値が進化し続けるようなイメージの記載があった方がいいと思う。

(加藤委員)

まさに委員のおっしゃる通り、アップデートするということも、多分皆さんほぼ同じなんですけど、言葉としてなかなかそれを伝えるのは難しい。

(老田委員)

ものづくりのアップデートというのが、一番早いのでは。

(森山委員)

ちょうど時代の流れとか色んなものの中で、持続可能にしていくということなんだと思う。

(阿部委員)

進化しないとサステナブルにはならない。

(森山委員)

社会の変化や環境の変化など、色んな変化に強い企業でなければ持続可能なんてできない。時代や社会の変化にも負けない企業、負けないものづくりだと思う。

(井上委員)

以前の議論で、多分そのものづくりというのが、昔からのものづくりから先ほど阿部委員おっしゃられたように色々な形で変わってきている。例えば商業でいっても豆腐を作ることも、ものづくりになるみたいなお話があった。

ものづくりのイメージを少し変えましょうというのが、多分この産業振興の分野では謳われていて、だけど、その老舗の企業とかもあり、ここに書いてある時代の変化、どんどん挑戦し続けないと残っていけないという議論があった。それが挑戦し続けるというところでまとめられているのかと思う。

それで作って終わりじゃなくて、それを住民の方とか地域の方が企業も含めて購入して使用して愛着を持って地域で価値を高めていくそういう一連の流れでこうなっているのかなと私は思っている。なので、あんまり違和感はなく、言葉の使い方は検討の余地があるのかもしれないが、全体としては今までの議論もそういうふうにまとめられたのかなと思っている。急にまたものづくり、ものづくりと今日急にたくさん出てきてしまったが、1回目の時にそこじゃないよねみたいな議論もあった気がする。

(事務局)

こちらの未来予想図は今井上委員おっしゃられたような全体の一連の流れも踏まえ、前回の産業振興を議論した際の意見を基に、一旦まとめさせていただいた。これから本日の議事で、後程ご説明しようかと思っていたが、この第1部会のこれまでの内容をまとめて、基本目標や、将来の姿を定めていきたいと思っているが、時代の中で進化していくものづくりみたいな表現とかは、大きなまとめの将来の姿のところで表現したりとかそういう方法もあったりするかと思う。

(加藤委員)

もう一つ、文化芸術・スポーツの内容も少し見ていただいてから次の話題に行こうかと思う。こちらの修正案について、ご意見がある方はご発言をお願いしたい。

(阿部委員)

今日ご欠席だが、文章の中で生涯にわたってというふうに使っていただいているが、生涯スポーツって皆さん良い言葉だねと合意されたような感じがする。なので、あまり使われてないのか、もしかすると専門家の皆さんの中では生涯スポーツってごく普通で使われている言葉なのかもしれないが、「生涯スポーツ」という言葉をちゃんと項目の中に項目立ての目立つところに使われた方がいいのではないかなと。この学び続けるスポーツを楽しむっていう部分について。

(事務局)

現状の案では、生涯にわたって学び、スポーツに親しむというところで表現させていただいている。

(森山委員)

生涯スポーツの方がなんかストンと落ちる。結構使われている言葉のような気がする。

(阿部委員)

生涯学習・生涯スポーツって並列で書いても悪くないと思う。

(加藤部会長)

細かいが、スポーツを楽しむではなく、スポーツに親しむとなっている。

(森山委員)

スポーツに親しむというのはするだけでなく、見ることも含めてということか。

(事務局)

スポーツをするだけでなく、見る、支えると色々な関わり方があって、より身近に感じられる表現にした。

(加藤部会長)

今皆様から出たご意見は事務局の宿題とさせていただいて、次の議論に移る。

(2) 各部会のまとめ

(加藤部会長)

次の議論として、本日は部会のまとめがテーマになっている。
改めて事務局から資料について説明をお願いしたい。

(事務局)

資料3から資料8について説明を行った。

(加藤委員)

事務局から説明があったように、これまで議論してきた三つの分野について、改めて全体を見た上で10年後の将来の姿に関する文言が記載の内容で適切か、足りない視点や追加意見等があればご意見を頂戴したい。

今まで議論していきたくを含めて、資料4に載っている区民の皆様方からの意見等をご覧いただきながら、産業振興、文化芸術・スポーツ、観光・シティプロモーションと順番は構わずご自由にご議論をいただきたい。

その後に基本目標となる〇〇なまちという点や将来の姿について、この部会の議論の中で出てきたキーワードを参考にご議論いただきたい。

(老田委員)

この〇〇なまちというのが3つ書かれているが、これが本当にその3つ括って表現をするべきか？

(事務局)

現在の基本構想については基本目標が5つ定められている。今3つの部会に分かれて議論いただいているが、部会ごとに基本目標を1つずつ定めていただき、基本計画に落とし込んでいくときに、この基本目標の括りで改めて定めさせていただきたいと考えている。

(老田委員)

産業と文化振興と観光を括ってあるので、そこで出てくる〇〇なまちとされようとしているように見えるが、例えば他の部会も含めてここにある9つのことを議論した上で、その中で共通して出てくる3つのまちの目標像という考え方ではないということか。

(事務局)

第1部会は産業、文化芸術・スポーツ、観光というところで、そこをまとめた目指すまちの姿、基本目標の表現を考えていただきたい。第2部会では福祉、こども、教育、健康に関して、第3部会では地域活動、防災、まちづくりに関する〇〇なまちというのを出して、3つを作り上げたいと考えている。

(老田委員)

例えば先ほど安心して産業活動ができるようなまちという話になると、まちづくりということになるわけだが、その発信源が例えばその産業というところになってくると、そのことってどこにくのかとなる。それぞれの部会でやっていることはクロスすると元々話をされていたと思うが、クロスすると言われている中で、それぞれの部会ごとに1つずつ目標を決めるという話はちょっと無理があるなというのを感じる。

(加藤部会長)

このまちをどうしても3つ、各部会で作っていった、他から出てきたものと矛盾するってこともあり得るわけですかね。

(事務局)

それぞれの部会の議論で各回共通するキーワードを同じような形で、第1部会は挑戦、にぎわい、活力と参考にお出ししているが、第2第3部会の方ではまた別のキーワードを出して検討していただいている。

(加藤部会長)

それぞれの部会でまずは作ってしまうということでよいのか。

(事務局)

第1部会としての意見を考えていただいて、次回から全体会が行われてくるので、そこで改めて調整していく。

(老田委員)

キャッチフレーズを調整っていうのは難しい。

(森山委員)

この何とかのまちというのは、基本構想の中で住み続けたいまち、働き続けたいまち、訪れたいまちみたいな形で出ていくものか。

(井上委員)

老田委員と同じ感覚を持っていて、クロスとか連携させるとか横串とか言っていて、ここでは1個1個ひとまず出しますってことだけど何で必要なのか。

(加藤部会長)

最後「まち」でまとめる必要はあるのか。

(事務局)

基本目標の表現の仕方については、事務局の中でも検討中である。

(加藤委員)

今まで委員の皆様方から議論があった3つの分野の話をもうちょっと詰めていくのが大事なのかなという気がする。それがないとその先にいけないような気がするのだから。

(事務局)

最終的にどういうふうにとまとめるかという過程の中で、どういう手法でやるか。産業分野、文化芸術・スポーツ、観光・シティプロモーションと、少なくともこの括りは最低限の単位として考えている。

(加藤委員)

この3つはもう間違いなく必要で、今日議論すべきはこの3つを固めていくと、それと同時にこの3つから出てくるキーワードは何かというのは必要だと思うが、それをそのまちでまとめてしまう必要はないということにして議論するのはできないのか。他の部会も同じことをしているのか。

(事務局)

他の部会でも本日はこのまちまで考えられるといいなというところでやっている。ただ、このまちを決める前にしっかりそれぞれの3つの分野について議論していただきたいと思っている。

(阿部委員)

事務局的に今の時点で例えばこの何とかのまちのイメージとして持っているものがあるのか。

(事務局)

例えばの案として、キーワード等を考慮したうえで、「集い、にぎわう。人々が躍動するまち。」とか「新たな挑戦やわくわくを楽しめるまち」とか幾つかの案を考えてみた。挑戦、にぎわい、活力のようなところから連想される基本目標を、事務局の案を基にブラッシュアップしていただくのも良いかと思う。こういったものがそれぞれの部会から出されてくる予定である。

(加藤部会長)

10 年後の未来予想図、これをもう 1 回お話いただいて、その上で出尽くしてから、そちらの議論に移りたいと思う。先ほどの議論の続きでまだお話されることがあればお願いしたい。

(佐久間委員)

墨田区の全体像で見ると、福祉だとか教育とか地域の繋がりとか、まちづくりとかあるが、この産業と文化と観光というところでは、やはりここにも書いてあるまちの魅力を出し、魅力が出ていて人々の目を惹きつけるというか、そういう戦闘的な何か踏み出す原動力になるような部分が、この第 1 部会の分野になるのかなと思っている。そういう意味では目新しい何かを作り出して、人を惹きつけるとか、そういうようなイメージで、活力の源になるまちだと、何かそういうようなイメージがある。

(加藤部会長)

おっしゃるとおりだと思う。

その中で例えばその産業振興の部分というと「価値を理解し、応援する」の部分をもう少しアップデートするということや文化芸術の中でも生涯学習・生涯スポーツの話があった。あと観光シティプロモーションの中でもですね、「あらゆるものを魅力にする」の部分をどうしていくかのご議論いただいたが、それをある程度事務局の方に、お考えいただくことになると思うが、それを前提としてこのまちを考えていくことになる。10 年後の未来予想図については、一応ここまでお話いただいたところで、もう出尽くしたというところでよろしいか。

(老田委員)

若手職員さんの提案の中で、かなりデジタルのことをクローズアップして語られているところがある。今のところほとんどデジタルが登場してないが、10 年後はデジタルは当たり前の世界かもしれない。墨田区ではそれはやらないで、リアルに行くという話なら別だが、他の部会でも恐らくデジタルは関わってくる。デジタルがないことはありえない。実際観光でもそう思う。

(阿部委員)

これからの10年後を考えるのにDX、GXに全く触れないっていうのはなんかやっぱりおかしい気がする。どういう言い方をするかも別として観点として、デジタルとグリーン環境に全く触れないまま産業なり観光なりをやるっていうのもちょっと変な感じ。

(事務局)

おっしゃるとおり、これからの10年後の未来っていうところでデジタルは産業観光だけに関わらず、色んな分野のところに関わってくると思う。なかなか各分野全部にデジタルと入れるのもどうかと思うので、例えば、全体を通じてというところで、もっと上のところでDX等について触れていくことが考えられる。

しっかり事務局の方でも整理をしていきたい。

(井上委員)

老田委員おっしゃるように、産業振興で触れてないのもおかしいというのは、よく理解しているが、文章中に入れてしまうと言葉自体の意味がどんどん変わってきてしまうと思っていて、例えば10年前はAIとかDXって誰も言っていなかったのに、今は出てきてしまうので、そういうところの表現とかにあまり入れない方がいいのかなと思った。ただ現状は、デジタル化はもうやっていることなので、それをどうするかというところを文章には入れた方が良いとは思っている。

(森山委員)

デジタルやDXはあくまで手段だと思う。本質とはちょっと違っているような気がするのでそういうものを活用して、何かをし続けるのは良いと思う。

(老田委員)

デジタルが、うっかりすると本質になりつつある印象があって、電車の中で見ていると、全員が携帯をいじっている。これは何が起きているのかというと、電車に乗っている時間が無になっている。要は電車に乗っている時間が無駄なので、無になってしまったので、スマホを通じて別の世界に皆さん行っている。

なので、もう既にその段階に入っているということでいうと、データももう実は手段ではなくなりつつあって、もはや一つの空間になってしまっている。それはすみだの中の空間としてどうなるのかというのは、一つ表現としてはどこかにあって然るべきかと思うが、手段として言う必要はないと思う。便利になるのは当然に起こって、デジタルは一つの空間になってしまっている。

(阿部委員)

やはり、キーワードで「本物」という日本語はこだわりたいワードで、最近デジタル、vsだとリアルになるが、このまさにリアルで、人を大切にするとか、それでも人とのご縁を大切にしたいなところがこだわりとして出てくるかどうか、結構墨田区らしさを意地でも頑張るみたいなのところに通じる感じもしくな

い。日常、毎日の生活、本物、リアルがキーワード的に、あらためて〇〇なまちは、「本物がいきるまち」で良いと思うが、何かフェイクじゃないってところがすごく重要なような気がする。だから張りぼてでつくりものではないというところ。

（老田委員）

逆にディズニーはほとんど張りぼてで、ファンタジー。行ってみると張りぼてながらも、その中にはしっかりしたコンテンツがあるので、その部分は本物。ミッキーは偽物だということではなく、キャラクターとしてはやっぱり絶大なる本物。それがデジタルで表現されたりしても、それは本物だと思う。阿部委員がおっしゃるような本物っていうのは、デジタルで表現されたとしても、本質が損なわれることはない。

（森山委員）

デジタルってそこに来なくなつて見れるもので、すみだじゃなくてもいいような気がする。

（老田委員）

でも生まれてくるのはそのコンテンツに由来があるからそこで生まれてくるので、手段というより、先ほども言った空間と考えると、デジタル空間の中にもすみだはあって然るべきかなと。

（相澤委員）

デジタルを入れるか入れないかは、あんまり気にしなくていいかと思う。結局普通の人の日常になってくるので、そんなに新しいことを何か挑戦すると言われてもデジタルを使って何か挑戦するんだらうなと思う人もいると思う。

ただ、GXとか自然系の何か、我々の分野に合うかどうかかわからないが、自然を大切にするとかというのは何かあった方が良くと思った。

（事務局）

相澤委員のおっしゃられた自然環境の部分については、第3部会の未来予想図の中で、環境を自分ごととして考えるというところで議論させていただいている。

（相澤委員）

観光のところとかに自然な何かが入らなくていいのかなとちょっと思う。

（佐久間委員）

自然は少ないが、荒川の河川敷なんかもゆったりとした自然な環境で、結構緑被率も上がっている。向島百花園とかもある。

（阿部委員）

確かに観光のところでこれ河川とか舟運が全く触れられていないのはちょっと落ちているかもしれない。水辺は入っている。

(森山委員)

他の地域、地方と比べて自然は豊かではないが、路地園芸とか、みんな生活に工夫はしている。あらゆるものを魅力にするって、路地園芸を作って人の家の緑を作ったり、みんな魅力にしている。

(加藤部会長)

デジタルを入れるとなかなか難しい。本物をデジタルで表現するっていうのはもう当たり前の話なのかもしれない。あえて言うも必要ないのかもしれない。

(森山委員)

自ら発信したくなるというのは、デジタルを使って、SNSを使って発信するので、手段としてそれぞれのところには入ってはいると思う。デジタルはあって当たり前ということになる。10年後はもっと先を行っているかもしれないし、新しい技術が生まれているかもしれない。

時代の変化を捉えながら産業構造の転換、技術の革新に適応していく、時代の変化というところが、デジタル技術も含めてということなんだと思う。

(佐久間委員)

10年後も引き続きあってほしいのは、やっぱり人と人とのつながりとか、触れ合いとか、そういうデジタルの世界とまたちょっと違って、生の人付き合いやつながりのようなことは、価値あるまちに繋がるのではないかという気がする。

(森山委員)

この若手職員の方のレポートの中に、人材確保というのが人の言葉で出てくるが、人のことは多分全てのところに絡むんだろうなと思うが、その辺は第1部会だけでなく、あらゆるところに関わってくる。人口減少とかそういったものはどういうふうに捉えられるのか。

(事務局)

人口に関する表現については、例えば他の自治体の基本構想を見ていると、基本構想の中で将来の人口推計をあわせて載せたりしていて、その予測を踏まえた上で将来の姿というところで描いているところもある。

(森山委員)

墨田区としてはこのままずっと人口が増えるという想定か。

(事務局)

人口については昨年人口推計をした中で、2035年頃までについては、生産年齢人口が増え続け、総人口の増加が続くだろうと予測している。そこ後は減少傾向となり、2050年頃には現在の人口と同じ位になるだろうということ考えている。

(阿部委員)

基本的な認識の確認だが、おそらくこの中の「基本構想とは」というところに書かれることにも共通すると思うが、墨田区として行政としてこの基本構想が最終的にまとまり、これが墨田区の未来予想図ですと言って出すときに、その価値観に合わない人は来ないでくださいとか、あるいは今住んでいる人はその価値に合わせてくれないと楽しく生活できませんよとなるのか。

何を申し上げたいかという、人とつながるのはもちろん大切だし、人情ももちろん大事だが、もうとにかく人と関わりたくないという人もたくさんいる。そういう人は墨田区に来ないでくださいという強いメッセージを送るような基本構想なのか。

以前、観光をやったときに、修学旅行の誘致はするけれど、墨田区で宿泊するならば、夜中に警察がパトロールしないといけないような学校は来ないでくださいというメッセージを送るのは結構重要になる。

この基本構想の役割としては、将来の墨田区のイメージを明確にすることで、その価値観に合う人達が、そういう中で楽しく生活が続ける、働き続けるということをも本気で目指すのかどうかということになるのか。

(事務局)

区民の方の中には、人とつながりたくないという人もたくさんいると思う。しかし、区としては「人つながる墨田区」でこの間やってきた。新型コロナの対策でも、つながりの力で乗り越えてきたという実績もあるので、やっぱりそういうことを目指したいというのは基本的にある。

そうしたことが嫌な人は来ないでというよりも、そういうことを目指して一緒にやっていきましょうみたいな、そういう投げかけに近いものであると思う。

(老田委員)

色々な人がいるので、新しくできたマンション、やはり町会にはもうほぼ関わってくれない。そうするともう町に対する興味がなくなのかなと思ったりもするが、そんなこともなくて、すみだまつりみたいなイベントがあると皆さん意外と参加されていたりもする。バランスをとられているのかなというのもあると思う。

(森山委員)

先日、築地場外商店街に行ってちょっとお話を伺ってきたときに、中央区では今築地場外市場デザイン協議会というのを作られていて、その中で憲章を作られている。自分たちのまちの誇りを5つの短い文で表現したもので、築地場外市場は、「食の最高峰のまちである」「プロが認めるまちである」「活きなまちである」「伝統のまちである」「人のまちである」というこの5つをまちの憲章として、例えば出店する方に私達のまちはこのまちだから、そういう誇りを持って店をやってほしいという思いを伝えているとのことで、例えば観光客の食べ歩きのごみも、その店の責任になる。

例えば、私は観光協会として民泊やゲストハウスがたくさん出てくる中で、民泊の人たちがもっと泊まる人たちにちゃんと夜遅くまで騒がないで欲しいとか、ポイ

捨てをしないで欲しいとか、そういうことを伝えてほしいというふうには言ってもなかなかそこが徹底されないことがある。墨田区で民泊をする人、お店を出す人に、やはり私達のまちで商売をするのであれば、こういうまちだと、出す人たちも誇りを持って、こういうことは守ろうということを知ってほしいと思い、私達も憲章を作ったらどうかと最近そんな話がちょっと出ている。

けれど、この基本構想は、ある意味住んでいる人も働きに来る人も、店を出す人、商売をする人もすみだというまちを押し付けるわけではないけれど、こんなことを目指しているまちなんだということは、この基本構想の中にちゃんと出るようなものが良いと思う。

特にこの第1部会のところは、多分役所の中でいうと事業部系、特に14階フロアのところの部会だと思う。14階はどちらかというと基本生産性のある事業系のところであると考えたときに、やっぱりそういう人達とすぐくつながりがあるところであるからこそ、なおさらまちづくりをするとか、お金、税金を含めて価値を生み出すところのものであるならば、なおさらここで商売をする、ここで生きていく、ここで生活をするのであれば、こういうことを一緒に守っていきましょう、そういう想いを持っていきましょうというような形の表現ができるといいんじゃないかと思う。

(加藤部会長)

それが先ほどの基本目標の「〇〇なまち」の部分になるのだと思う。そこを第1部会として持っている分野の中で、そういう考え方がちゃんと表現できればいいのかなと思う。

(森山委員)

そのような表現が損なわれないような形で全ての部会のところから上がってくるのか。そういうトーンであって、それがすみだってこういうまちなんだから、みんなでそういう思いを共有しようというふうにできると一番良い。

(佐久間委員)

魅力的な素材というか、墨田には色々あって、今までのものだけにこだわるのではなく、素材をさらに磨き上げてより良いものにしていく中で、こんなに良いものがあるんだということを引き続き、継続的に発信し続けていって、新しく人を惹きつけて、外からも人を呼び込めるし、中にいる人たちにもこんなに良いものがあるんだということに気づいて、さらに愛着が増す。そんなイメージで、先ほども話したが、この第1部会の分野は他のまちよりも我がまち誇れるものがあるんだというものづくりや、色んな伝統的なものとか、そういうものをさらに磨き上げて、バージョンアップしていく、そして対外的にも情報発信し続けていくということをしていくまちだとなったらいいなと思う。

(加藤部会長)

ある程度今までの皆様方の議論の中で、例えばまさに本物があって、価値がアップデートしていくまちなんだっていうのがこの部会で出てきたということになる

と思う。そこを〇〇なまちに何とか繋げていこうと思うが、なかなか簡単ではなさそうだが、ご意見をいただきたい。

（井上委員）

産業については産業と観光は役所でも産業観光部というぐらい近い。文化芸術・スポーツそことはちょっと違うが、この部会では一つになっているので、どちらもうまく伝わるために、例えば生涯学習生涯スポーツとかの分野もわかりやすいキーワードが入ってこないとなかなか難しいなと正直思っている。

各分野の表題も挑戦し続ける、価値を理解し応援する、自分らしく働くことができるが産業観光分野で、文化芸術スポーツ分野が伝統をつなぎ新しい文化芸術を創造する、学び続ける、スポーツを楽しむ、心をつなげてにぎわいをつくるなんで、そこを見てもなかなか出てこない。

（阿部委員）

何か価値観の共有を目指すと、いつぞややっていた「やさしいまち」みたいになってきてしまって、改めて築地市場の憲章もいいなと思うが、何とかにやさしいまちが並ぶみたいなことになってしまうのは嫌だなと感じる。

（森山委員）

スポーツと文化が入ると難しいが、「伝統と革新」。

伝統も大事だが、革新に変えていくアップデートしていく。それが織りなすまち、繰り返されているまち、それを両方大切にすまちみたいな感じになるか。

（加藤部会長）

そこに本物の要素も入れる。

（井上委員）

スポーツが難しい。スポーツに革新があるのか。

（阿部委員）

例えば、変化に柔軟に対応できるまちと仮にすると、変化に柔軟に対応できるのはそこに住んでる人なり、企業も含まれてくる。

（井上委員）

このままいくと、どこの区でも当てはまるようなキーワードになってしまう。

（老田委員）

この3つで括っていくのが無理があるのではないかというのが、印象としてすごくある。9つある中からうまくキーワードで3つにするのはありだと思うが、この3つの分野でできたやつで1個ずつ、それを3つ作るのは、やはり強引さが出てくるような気がする。特にこの部会はそのような気がする。

(相澤委員)

他の部会は何か三角形みたいになっているような、ちょっとずつが多分繋がっているような感じがするが、産業観光は繋がるけど、産業と文化振興は繋がらなくても、観光と文化振興は繋がるので1つの部会にしたと思うが、ちょっと難しい。

(加藤部会長)

福祉、こども、健康も、これを一つにまとめるのもちょっと難しそうである。

(阿部委員)

強烈にやはりすみだの特徴を表すような言葉になったときに、そんなところには住みたくないという人が、あるいはそんなところで仕事をしたくないという人を誘発しかねないというのがちょっと気になる。

(加藤委員)

柔らかくしすぎるとどこにも通用するし、強くするとちょっと排他的になる、まさにそうかと思う。

(阿部委員)

何て言うか、もちろんそういうつもりは全くないが、例えば北斎が大事なコンテンツで北斎北斎と言うとして、北斎に興味がない人はとんでもないとか、北斎が嫌いなんて絶対言わせないとかってなってくと、なんかちょっと違う。相撲もそうだし、花火が嫌いだっていう人ももちろんいるわけで。

(佐久間委員)

墨田区は伝統的に江戸を中心に、文化も花開いているし、それが未だに相撲があったり花火があったり、葛飾北斎だとか、様々な伝統がありつつ、ただ伝統を守っているだけではなくて、その伝統をさらに革新していて、北斎美術館も同じものをただマンネリで展示しているのではなく、こういう技法があって、だから世界を引き付けているということも語り継いでいる。

それを新たな次の世代の子供たちにも出前授業でお伝えしていて、ただ単純に昔のものを教えるのではなく、それをいかに現代風に革新させて、さらに魅力アップするような内容にしてはどうかということも併せて伝えている。伝統的なものを持ちつつ、革新を極めていると、そういうようなことと言えば産業だってスポーツだって、今まで議論されていた、どんどん革新して、新たなスポーツあるいは楽しみ方をただやるのではなく、見る、あるいは応援するとかそういういろんな広がりがあると思う。

そういう伝統と革新を何とかうまく循環させながらやっている。いい素材を持ちつつ、魅力を発信できる。そんなイメージを伝えられたらいいと思う。

(加藤委員)

確かにおっしゃるとおりだと思う。

	(相澤委員) 「伝統と革新が融合し、未来を創出する希望あふれるまち」 今ＡＩに入れて未来のまちを作ってもらった。スポーツも入れて、最初の表題の部分から幾つか出してもらった。ＡＩは手法として、まとめてくれる。 (阿部委員) 伝統と革新が融合するまちは悪くないと思う。 希望あふれるまちっていうのはいいフレーズで、まちに来たくなる。 (井上委員) 身近とか、気軽にということが生涯学習とか生涯スポーツのときにそういう表現が多かった気がする。日常とかもあった方がよいか。 (加藤委員) そろそろ時間になるので、一旦事務局で検討してもらうことでよいか。 回目の連絡と合わせてご説明願いたい。 (事務局) 他の部会の内容も確認しながら、事務局で案を考える。 回目の全体会で第１部会としての意見を報告したいと思っているので、事務局で考えた内容を皆さんにご提示し、ご意見をいただいたものを、加藤部会長とも相談してまとめることとしたい。 次回からは、全体会での議論となる。１２月１６日月曜日の午後７時から、すみだ共生社会推進センターでの開催となるのでよろしくお願いいたします。 (加藤部会長) 以上をもって第５回の部会を終了させていただく。 解散
所 管 課	企画経営室政策担当（内線３７２２）